

説教

四

四

ローマの信徒への手紙 3章 21節～26節

須田則子

様は、正義の神です。罪を、悪を

たちは不条理によつて、不条理な

びかけ使命を与えます。彼が悔い改めたから、などの理由は一切ありません。一方的に、無条件にパウロを選び、義としてくださったことをお示しになりました。なぜ、このようなことが可能になつたのか。主イエスが、私たちの代わりに神に見捨てられたからです。神

罪人が裁かれ、神に見捨てられるのは当然の帰結ですが、主イエスが見捨てられるのは、「なぜ」と問う不条理です。不条理は、道理に合わないことに用いる言葉です。通常は悪に用います。しかし、私

1990年、経堂北教会で受洗し、1997年、伝道師となつた際、教会の皆様からロマ書の注解書を贈つていただきました。27年経ち、改めて皆様との書を読みたいと願います。

「サウル（パウロ）、なぜ、わた
しを迫害するのか」なぜ①。

口マ書を書いたパウロは、教会

を迫害していた暮最中に主イエス
ニギヤサシ、「ニギヤニ

に呼びかけられ、なぜわたしを迫害するのかと問われました。

答えは記されていませんが、どの

ような答えを想定できるでしょう

か。フイリピ書には、「(律法へ

の熱心さの点では教会の迫害者

〔たゞた〕と自〔紹介があります

「わか神 なせ わたしをお見
捨てになつたのですか」なぜ②。
そのようなパウロに主は突然呼

にすり替えることです。律法主義で自分を、隣人をしづりつけることです。そうではなく、ひたすら十字架の主をあおぎ、ただ「このお方」によって義とされたことを信じ、感謝し、喜んで共に歩ませていただきたいと願います。

| | | |
|------------|--------|----|
| 説教・「義」 | 須田則子教師 | …1 |
| 特集・ | | |
| 雨にぬれても… | 2 | |
| 長老に就任して… | 4 | |
| 長老を退任して… | 4 | |
| 定期教会総会 | | |
| 報告 | …5 | |
| 長老のファイル… | 5 | |
| 説教・「敵を愛する」 | | |
| 岸俊彦牧師 | …6 | |
| CS 春のピクニック | | |
| 報告 | …7 | |
| 子どもの日報告… | 7 | |
| 牧師の書斎から… | 8 | |



雨にぬれても

聖書では雨は豊かな実りをもたらす祝福とされています。

雨は恵みである一方で、災害を招く怖い面もあります。

あなたの心に残る雨の記憶を教えてください。

天からの恵み

岸 恭子

10月、勢いよく流れる水音と人が動く気配で目覚め、酒造りの季節が巡ってきたことを知ります。私は広島県の福山市内から約30分の所にある、小さな町の小さな造り酒屋に生まれました。父は20代の若さで家業を継ぎ、3代目の蔵元になりましたが、相当不安だったと思います。秋風が吹いて新米が出回る頃、杜氏と6人の蔵人がやって来ます。杜氏とは酒蔵で酒造りの一切を仕切る責任者で、父とは強い絆がありました。

酒造りにとつて大切なのは米と水。それに関してはこだわりが強く妥協はしません。酒米は酒造りのために栽培された特別米です。岡山県の寒暖差の大きい山間部のため、空氣と良い土壤に降り注ぐ雨によって育てられます。その中から選び抜かれた酒米のみで、大吟醸がつくられるのです。

水は近くの山々に降った雨が地中に浸み込み、濾過されて長い年月をかけてゆっくり流れ、酒蔵の下にたどり着きます。そのため、長いパイプが地中に埋められ、遠くから酒蔵の井戸に繋がっていることを知った時は驚きました。

「水は授かりもの」と言われるよう、酒造りは天からの恵みの雨が仕込み水となり、洗米から始まる10の工程で使用されます。それに杜氏の知恵と技術、蔵人の献身的な働き、蔵元の情熱が加わってこそ、美味しい日本酒をつくり上げることができます。

しかし、時代の流れと共に杜氏と蔵人の減少、蔵元を継ぐ後継者がいない厳しい現実により、実家の酒造りも廃業せざるを得なくなっていました。良いものがあつても、それを継いで伝えていく者がいなければ終わってしまいます。

教会はどのような時代の中で続ける使命があります。経堂北教会がいつまでも続く教会として、も、主の御言葉を語り続け、伝え続ける使命があります。経堂北教会がいつまでも続く教会として、芳醇な酒の香りのようにキリストの香りに満ちた教会となり、主に喜ばれる歩みが与えられることを

雨に歌えば

酒井由紀子

もうすぐ梅雨。梅雨の時期は、出勤時にびしょびしょになつて髪はうねるし、低気圧頭痛になるし大変なことが多い。けれど、大自然にはなくてはならない恵みの時だ。植物に実りをもたらし、山や川は潤う。「主は曙の光のように必ず現れ 雨のように我々を訪れる。地を潤す春の雨のように」(ホセア書6・3)とあるように、聖書では雨は神様からの恵みであり、神様の祝福として描かれている。

恵みの雨も降りすぎると災害をもたらす。故郷の鹿児島は黒潮の影響で水分を含んだ雲が山にぶつかるため雨が多く、年間降水量は2434mm(全国平均1661mm)で、全国3位だ。霧島などの火山から噴出した灰や軽石が堆積したシラス台地が県土の半分を占めるため、豪雨が降るとあちこちで土砂崩れが発生する。高校生の時、台風による大雨で自宅近くの裏山

が削り取られるように崩れたり、公園の階段の手すりが土台ごと消えて恐ろしい思いをした。以前通学に使つていた海岸道路に土砂が流れで人が海に流れされ、道路や鉄道が寸断したこともある。

近年は温暖化により世界中で豪雨が降り、水害が増えていく。東京でも川が氾濫したりして不安になる。2018年には、いつも利用する阿佐ヶ谷駅周辺が冠水してしまった。

豪雨は恐ろしいが適度な雨は好きだ。雨音を聞いていると落ち着いてぐっすり眠れる。雨に関する歌も好きで、パート・バカラックの『雨にぬれても』、ジーン・ケリーの『雨に唄えば』、アントニオ・カルロス・ジョビンの『三月の雨』は明るくて、憂鬱になりそつな心を軽くする。

梅雨でも雨の歌を口ずさんで朗らかに過ごしたいものだ。



雨が降つても

中山かおり

南の方から梅雨入りが発表されている今日この頃、ジメジメした暑さの中、熱中症対策をしながら、日々過ごしております。

「雨」というと、私は自他ともに認める「雨女」です。「雨女」など、気のせいだと思われるかもしれません。が、私の場合、雨の降るタイミングが絶妙で、雨予報の時には、私が外出すると雨が降り始め、屋内に入ると雨が止む、ということも珍しくありません。

私は、そんな自分がわかっているので、常に傘を持ち歩いています

し、雨が降つても大丈夫と、前向きにとらえるようになっています。以前は、雨が降るたびに、おこがましくも、私のせいで雨になつたと憂鬱になり、私とは反対の「晴男」を羨み、卑屈になることもありました。しかし、この御言葉に救われたのです。

先日、将来のことと悩み事があり、相談をするため外出したのですが、たまたま雨に降られました。しかし、雨が止んで太陽が出たと同時に、自身の悩みも解消されたのです。神は見てくださっているのだと、神の愛を感じました。

雨が降つても降らなくても、神が共にいてくださることを感謝し、祈り、これからも信仰生活を続けていきたいと思います。

「しかし、わたしは言つておく。



敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。あなたがたの天の父の子となるためである。父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださいからである」

(マタイ5・44-45)。

神の愛は無条件で平等であり、そのままの自分を受け入れてくださいます。「雨女」のマイナスなイメージに囚われていた自分がちっぽけに思えたのです。

長老に就任して 信仰のリレー

諸橋鷹広

中学生の最後の運動会で僕は全員リレーのアンカーでした。一番盛り上がる種目の最後の走者という花形で、良いところを見せようと、クラス全員で繋いだバトンを待っていました。20メートル、10メートルとバトンが近づいていくと同時に心臓の鼓動も速くなっています。しかし、友人から渡されたはずのバトンは手をすり抜け、バトンが地面に落ちる乾いた音が響きました。今でも鮮明に覚えている思い出です。

今年度の教会総会で、長老として立てられ、僕に入れ替わるようにならねえ長老が任期を終えました。まさにバトンの受け渡しが行われるリレーのようです。経堂北教会が創立されて以来、80年間ずっと繋いできたバトンです。教会員の方々に、「これからよろしく」「期待しています」といったお声がけをいただき、なんだか誇らしげに感じました。もちろん長

老としての務めをきちんと果たすことが出来るだろうかと不安な気持ちもあります。

長老を辞して思うこと 鈴木ごづえ

初めてこの教会の礼拝に出席してからちょうど10年経ちました。CS学生科、CS教師、青年会の活動、色々な交わりの中で教会に携わってきて、この10年という節目に長老に任せられたのは、やはり神様の御計画の内に生かされていたのだと改めて感じます。

5月半ばに、北九州の教会で牧師をしている友人に会いに行きました。礼拝出席者は平均で15人ほどの小さな教会です。その教会では80歳の教会員の方が、今も現役で長老をしているそうです。長老歴はなんと50年。その方は、自分が長老として教会に関わっていることを喜びとして奉仕にあたつていていました。それに比べて僕はいまスタートを切り、走り出しましたばかりです。まだまだ至らない点も多くありますが、これからも続く経堂北教会の教会形成の一端を担つて、精一杯尽力して参ります。いま、長老として新しい気持ちで走り出しました。渡された

いつも神様の方を向いていない自分、御心に適つた生活をしていない自分、人と比べて自分は、と一喜一憂して日々を過ごしている私がいます。そして物事を順序立てて考え、整理し、優先順位を決めて取り組むという処理能力が不足していることは介護の仕事に携わって判つていました。何とか今まで過ごしてこられたのは先生をはじめ、教会員の方々の祈りに支えられていましたからです。改めて感謝いたします。

任期中に起つた大きな問題の一つはコロナ禍を乗り切ることでした。教会に来ることのできない方々とオンラインで礼拝を共有したり、感染注意事項を明確にして出席者に守つていただきたり、そのおかげで礼拝、聖餐式を休むことなく続けることができました。

もう一つは24年度を最後の年として退任される岸牧師の後任牧師の招聘でした。まず「経堂北教会

が求める牧師とは」を長老会で確認しました。岸先生は常日頃「後任が決まらなくとも任期は延長しない。無牧となることも恐れないで探すように」とおっしゃっていました。岸先生を中心として具体的な働きかけも始まりました。昨年夏が終わりになつても、これはと思う方に次々と辞退され、大変なことだなど改めて思いました。

秋に、思わぬ近い方からの紹介で松谷祐二先生の名が浮上し、教会総会を経て無事後任の牧師と決まりました。ただただ神様の恵みに感謝です。

私は教会にとつて一番大切なことは毎週の礼拝があつてこそで、御言葉が語られることだと思います。神様の御言葉が語られ、御言葉に聞き従う人々が集まつていれば、神様は必ず進むべき道を示してください。だから教会に必要な物は与えてくださいと確信しています。これからも経堂北教会の信徒の一人として礼拝に出席し、御言葉に聞き従い、喜んで奉仕を行いたいと思っています。これからもよろしくお願ひいたします。

定期教会総会報告

定期教会総会が4月第4週の日曜日に開催されました。

長老選挙では、長老12名の半数6名の改選が行われ、新たに諸橋鷹広兄が選出されました。若い世代の長老が与えられたことはとても嬉しい出来事でした。新長老、岡田映子終身長老が祈りを捧げました。

教勢 並びに各会、団体からの報告が教会総会資料掲載の通り承認され、2023年度報告が書記監査報告が会計長老より行われ、長老より、2023年度会計決算、監査報告が会計長老より行われ、承認されました。

経堂北教会規則変更に関する件で、『教会は名誉牧師をおく』とができる。名誉牧師は教会総会で決定する」を削除する』が上程され、議案及び提案理由説明後、歴代の名誉牧師は誰であつたかとの質問がありました。岸俊彦牧師より村田正亮牧師、四竈揚牧師の2名であつたことが説明された後、挙手による採決を諮り、3分の2以上の賛成多数により承認されま

2024年度計画に関する件が書記長老から、2024年度経常会計予算（案）に関する件が会計老朽化への対策、また牧師館の改修中の岸牧師夫妻の転居費用、交通費はどのように扱うのかについて質問があり、岸牧師よりファンヒーターは必要な時期に補正予算を計上して買い替える、転居先費用、交通費については牧師館改修費用パッケージを作成して、改めて補正予算実施案を準備して、臨時教会総会に諮ると説明されました。その後、両件ともに挙手による採決を諮り、賛成多数により承認されました。

長老のファイル

5月12日の新旧長老会は「子どもの日合同礼拝」後に、祈つて、昼食を共にしてからの開始となりました。先月から長老会の場所が1階に戻り、テーブルの配置も元のスタイルになつています。みんなの顔を見ながら一緒に食事が出来るのはやはり嬉しいです。退任される鈴木こづえ姉を労い、新しく長老となつた諸橋鷹広兄を迎えて感謝の食卓でもありました。

さのそく今年度の書記や会計担当、総会で「新長老会に一任する」とされた西南支区総会議員や、各委員会の担当長老が決まりました。

私は昨年度に引き続き、栄光編集委員会と伝道委員会を担当させていただきます。伝道委員会は委員長の私だけでは全くの力不足なので、今年度は門田長老と大友長老と共に。頭を柔らかくしたらまつといいアイデアが出るのではないかと、今から楽しみにしています。メンバーも大募集中ですのです。ぜひ声を掛けてください。

担当の長老だけではなく、以前のように教会員の皆さんのお名前も入っています。表でお名前を確認していただき、一緒に教会の奉仕を担っていきましょう。以前と同様に、受付と献金当番の方には担当の長老から事前に連絡を入れますので、ご都合の悪い時はその旨お伝えください。

これまでも度々この欄で、来年度に松谷祐二先生をお迎えするためには様々な準備をしていくことが報告されてきましたが、いよいよ牧師館改修工事の概要が具体的になりました。「実施案ができましたら臨時教会総会に諮ります」と報告があった通り、この日の長老会で総会を5月26日の礼拝後に行うことなどを決定しました。この『栄光』がお手元に届く頃には長老会の提案が可決され、また一歩計画が前進しますようにと祈ります。

配られた年間の礼拝当番表を見ながら「あと何回岸先生の説教を聴けるのだろう」と感慨深くなっていますが、長老として毎回の礼拝をきちんと準備して整え、これからもまっすぐに御言葉に耳を傾けたいと思います。（沢田寛子）

『敵を愛する』

マタイによる福音書5章43節～48節

岸 俊彦

イエス様が教えてくださった大切なことは「敵を愛する」ことです。

敵を愛することができます。みんな敵はいなくなります。みんな友達になることができます。そうしたら争いはなくなります。

でも友達ともけんかします。本当は友達を愛することも難しいのです。でも、けんかしても仲直りできるはずです。自分だって謝ることができるはずです。相手を許すことができるはずです。それができないのは私たちの問題です。

イエス様は、「あなたがたは、天の父があなたがたは、完全な者となりなさい」と教えてくださいました。残念なことに、私たちは、完全ではありません。問題があるので。イエス様の教えに聞き従い、守ることができます。聖書では、そういう私たちのことを罪人とと言います。神様が完全だ、ということはど

ういうことでしょう。

イエス様が教えてくださいます。神様は「悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてください」と。これが、神様こそができることです。悪人にも善人にも、正しい者にも正しくない者にも、私たちが仲のよい人も、仲の悪い人も、どんなにも、太陽の光を注ぎ、恵みの雨を神様は注いでくださいます。

私たちたちがって、神様は完全だということは、どんな人も神様の子で、神様は区別なく、差別なく、愛してくださいているということです。私たちが完全ではない、その一番のことは、好きな人、嫌いな人、いい人、悪い人と、人を区別したり、差別したりしていることです。

私たちたちがって、完全な神様は違います。パウロが私たちに教えてみなさい。事実、私たちは

えてくださいます。

「私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対する愛を示されました」（ローマ5・8）。罪人である不完全な私たちを、神様が愛してくださっているのです。

「敵を愛する」まさに、私たちには自分を愛していますか。大切にしていますか。こんな自分なら生まれてこない方がよかつたと思つていいませんか。人のことを妬んだり、羨んだり、自分のことを僻んだりしていませんか。自分のことを本当に好きですか。大事にしていますか。罪人の私たちだから、完全なんて考えられない私たちだから、自分を大切にできないのは無理もないことかもしれません。しかし、そういう私たちを神様が愛してくださいています。全力で、命がけでイエス様が教えてくださいましたことです。

お弟子さんの一人が言いました。「私たちが神の子どもと呼ばれるために、御父がどれほどの愛を私たちにお与えくださったか、うに」共に励まし合い、共に進みます。

今日から、「天の父が完全であられるように、完全な者となるよう」共に励まし合い、共に進みます。

神の子どものなのです」（1ヨハネ3・1）。

私たちだけではありません。みんな神様の子どもです。そのことに気付かないのです。私たちに心を向け、私たちを愛してくださる神様に気付いたら、私たちも神様に心を向け、神様を愛するようになります。そして、神様の愛を受けて、私たちは神様の子どもとして、互いに愛し合うようになります。自分はもちろん、きっと、どんな人も愛することができるようになります。

CS春のピクニック報告

先日、実に5年ぶりにCS春のピクニックを開催し、つくし野にある屋外アスレチック施設で、アスレチックとバーベキューを楽しみました。参加は幼児2人、小学生4人、教師・保護者15人の総勢21人でした。両親を含むご一家での参加が4家族とあって、終始アツトホームな雰囲気でした。

会場に着いて開会祈祷を終えるなり、子どもたちは若手教師を引き連れて、アスレチックへ駆け出していました。起伏のある雑木林には木の遊具が数多くある他、大きな池を跨ぐ巨大な遊具もあり、遊具から落ちようものならそのまま池にドボンです。子どもたちは、水に濡れるスリルを楽しみ、片つ端から落ちようものならして回りました。場内には2人乗り・6人乗りの自転車があり、子どもたちは漕ぎ手の教師を「もっとスピード出せないの?」と煽り立て、教師は煽られながらの運転でした。一方、大人たちはその間にバーベキューの準備に取り掛かり、焼き野菜・焼きそば・焼肉が

あつという間に整いました。皆で食べ始めると、子どもたちはお肉よりも、野菜や焼きそばをパクパク食べるのでした。コロナ禍の間はCSでバーベキューを実施できずにいたので、久々にみんなの顔を眺めながらの食事でした。

子どもたちは食事もそこそこに遊びに戻り、食後は教師も遊具に挑戦したのですが、見事に膝下まで浸水する者も…。また、敗れた甲子園球児のように懸命に砂を掬つて遊ぶ幼児も（保護者はゲンナリ）。普段のCSでは見られない子どもたちの姿がたくさん見られました。思い思いに過ごしながら、神様を中心とした神の家族を体現する良い1日でした。（原 良介）

今年も無事に子どもの日合同礼拝を教会員の皆さんと過ごせたことを主に感謝いたします。子どもたちは、皆さんと礼拝を守れた非常的な王日をとても楽しんでいました。幼小科の子どもたちは合同礼拝の前日にピクニックへ行つたため、お花を大胆に活けながら和気藹々と思い出話に花を咲かせていましたが、中高科の皆は、しきめ面になりながら、あまり言葉を発さず苦労して花かごをつくつていきました。苦労した甲斐あって、皆のお花は綺麗に完成し、礼拝堂に飾られました。

今年の合同礼拝で、岸先生の説教や門田長老のお祈り、教会員の皆さんのお花は綺麗に完成し、礼拝堂に飾られました。

今年の合同礼拝で、岸先生の説教や門田長老のお祈り、教会員の皆さんのお花は綺麗に完成し、礼拝堂に飾られました。

今年の合同礼拝で、岸先生の説教や門田長老のお祈り、教会員の皆さんのお花は綺麗に完成し、礼拝堂に飾られました。

今年の合同礼拝で、岸先生の説教や門田長老のお祈り、教会員の皆さんのお花は綺麗に完成し、礼拝堂に飾られました。

子どもの日報告

段は控えめという印象でした。す

が、贊美のたびに緊張がほ

ぐれ、教員の皆さんの歌聲に負け

じと歌つてているの

を観て、聴いて「さすがミッショ

ン生たち、やればできるじゃん！」

と中高科担当としてとても感動しました。きっとコロナ禍を経て、礼拝出席者数が増えたことが大き

いと思いますが、経堂北教会全体がパワーを取り戻しているのを感じました。

志磨長老が準備してくださったお花は岸恭子姉の協力もあり、綺麗に咲いたまま駅と消防署へ届けられ、どちらも喜んで受け取つていただきました。ありがとうございました。また来年、一緒に礼拝に出席できることをCS一同お祈りしております。（牧内 歩）



個人消息



○小田哲郎伝道師

南三鷹教会に主任者として就任しました。

○武田厚子伝道師

千歳丘教会に主任者として就任しました。

○松井直樹伝道師

祖師谷教会に担任教師として就任しました。

○川崎信二牧師・理子牧師

桜ヶ丘教会に就任しました。

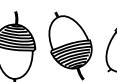
○清藤淳牧師

松沢教会に就任しました。

○中村謙一牧師

安藤記念教会に就任しました。

掲示板



○教会初夏の集い 6月23日(日)

説教 片岡宝子牧師

講演 片岡賢蔵牧師

編集後記



△梅雨の楽しみは雨に濡れた色とりどりのアジサイ。土壤や時間経過によって色が変化するのが魅力です。(酒井)

「栄光」2024年6月号
日本基督教団 経堂北教会
〒156-0051 東京都世田谷区宮坂3-21-11
電話: 03-3428-5029 / FAX: 03-3428-5038
牧師: 岸 俊彦
編集: 栄光編集委員会
Email: kyonon@nifty.com
HP: <http://kyodokita.life.coocan.jp>

牧師交代の前にハード面の手入れはできる限りやつておきたいと、長老会で協議しつつ取り組んでいます。自分の転居もあります。業者との打ち合わせも続きます。まず、コピーと印刷を1台でできるプリンターに交換しました。3月末に納入される予定が、運送業者を確保できず新年度となつてしましました。

毎年梅雨明け後にしていた庭の草刈りを行いました。牧師館の下水管に根が伸びて詰まつたり、落ち葉が近所迷惑となつたりする庭木を伐採しました。臨時教会総会で承認されたら実施する牧師館改修工事の邪魔にならないためもあります。気持ちとして教会の庭が広々と明るくなりました。

並ぶこともある女性トイレの残り一据も、和式から洋式に変えるため業者に見積を依頼しています。2階礼拝堂床のピータイルが割れ、足がひつかかって転ぶ危険があります。これまでボランティ

草刈りを行いました。牧師館の下水管に根が伸びて詰まつたり、落ち葉が近所迷惑となつたりする庭木を伐採しました。臨時教会総会で承認されたら実施する牧師館改修工事の邪魔にならないためもあります。気持ちとして教会の庭が広々と明るくなりました。

並ぶこともある女性トイレの残り一据も、和式から洋式に変えるため業者に見積を依頼しています。2階礼拝堂床のピータイルが割れ、足がひつかかって転ぶ危険があります。これまでボランティ

アで榎原正さんが修理してくださつていきました。掃除業者の指摘もあり、幾つかの案を検討中です。創立50周年の時、窓枠の改修と床の交換を募金して行いました。1967年に建設された会堂を補修しながらできるだけ長く使おうというのが方針です。ガス漏れ修理、漏電修理、地下室の防水工事、3度の外壁塗装と実施してきました。私の就任前にはトイレ増設工事もありました。改修工事の度に募金しなくとも対応できるよう会堂整備基金積立を創立60周

年に始めました。70周年には会堂建設積立を始めました。新会堂建設は資金の問題もありますが、難問は何と言つても会堂・牧師館あわせて現法律が許容する上限の1・5倍の建物だとということです。妙案はありません。

1963年に建設された牧師館は、耐震診断によつて地震で倒壊の可能性が高いと診断されました。20年以上使用可能な建物に改修し、その間に会堂建設設計画と資金積立を考えていこう、となるのではないでしようか。(岸 俊彦)